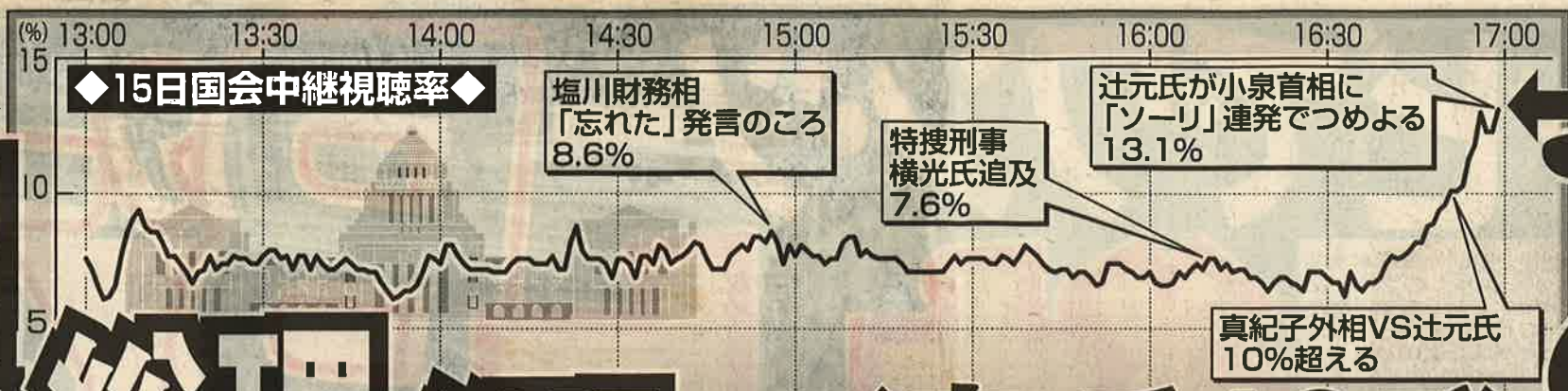
第3種郵便物認可　日刊スポーツ　2001年(平成13年)5月17日　木曜日

15日 辻元議員「総理総理総理…」連呼12発

その瞬間 視聴率13.1%

笑える国会最高潮

◆15日国会中継視聴率◆



小泉・真紀子人気で沸く国会中継が、またも視聴率記録を更新した。ビデオリサーチ社の調べによると、15日のNHK総合テレビの国会中継（午後1時から同5時）は平均視聴率7・6%を記録した。同時間帯ではワイドショーを抑えてトップ。瞬間最高視聴率はなんと13・1%で、10日の巨人戦の平均視聴率11・5%をも上回る「怪挙」となった。

NHK総合 平均は7・6%

◆同時間帯の主な他番組◆

日テレ	ザ・ワイド	7.5%
TBS	ジャスト	6.2%
フジ	ごきげんよう	7.4%
テレ朝	徹子の部屋	5.4%
テレ東	午後のロードショー	2.0%

◆国会視聴率　テレビの国会中継が始まったのは1952年（昭27）。ビデオリサーチ社が視聴率を調査し始めたのが62年という。これまでの高い視聴率は、細川政権誕生時の所信表明で、8.9%を記録した時があるという。また、田中真紀子外相の父の故角栄首相のころの国会中継は視聴率が高かった。

◆最近の国会関連中継視聴率◆

4・4	森前首相党首討論	2.6%
4・13	総裁選立会演説会	3.0%
4・18	〃 討論会	4.0%
5・7	小泉首相所信表明	6.4%
5・9	小泉内閣代表質問	4.9%
5・10	〃	4.6%
5・11	〃	4.5%
5・14	衆院予算委員会	6.5%
5・15	〃	7.6%

ビデオリサーチ調べ

15日の衆院予算委で小泉首相（右）に求めた答弁に、中谷防衛庁長官（中央）が応じたため、辻元清美氏（左端）が抗議。答弁を制止する小泉首相

森内閣では1%以下もあったのに

「忘れました」

今やワイドショーも巨人戦も超える勢いの「国会劇場」。15日の白熱の衆院予算委は午後1時から4時間というロングランにもかかわらず、平均7・6%を記録した。同時間帯では人気のワイドショーもトーク番組もぶち抜いてトップだ。ビデオリサーチによると「小泉内閣になってからは、視聴率は極めて高くなっている。森内閣のころは1%を切るときもあった」と異変に驚いている。

15日の衆院予算委では、田中真紀子外相（57）VS外務官僚出身の自由党の達増拓也議員（36）の遺恨バトル。塩川正十郎財務相（79）の機密費に関するテレビ証言を「忘れました」問題、小泉首相に詰め寄る「朝まで生テレビ」の論客、社民党の辻元清美議員（41）と、見どころはふんだんにあった。

防衛長官無視

そして瞬間最高視聴率13・1%を記録したのは、辻元氏が小泉首相に「憲法9条の範囲内では集団的自衛権を行使することはできない」と論戦を挑んだ場面だった。小泉首相が担当大臣の中谷元防衛庁長官に答弁させようとしたところ、辻元氏が「ソーリ、ソーリ、ソーリッ。私は中谷さん（防衛庁長官）には聞いてません。ソーリに聞いています。この問題はソーリが答えてくださいっ！」と防衛庁長官を無視して「ソーリ」を12連発し、かみついたところだった。

同じ時間帯のワイドショー抑え、低迷巨人戦にも勝った？

「バトル挑む」

辻元氏は、今回の現象について「国会中継の視聴率が上がることは歓迎します。マスコミでは小泉さんや真紀子さんが自分の言葉で答弁していると評価されていますが『自分の言葉で話す本家』としては、昨日の首相や外相の発言は中身を隠した言葉でがっかりした。首相の言葉を借りるならこっちが『恐れず、ひるまず、とらわれず』にまだバトルを挑みます」と宣言もした。

NHK広報では「小泉内閣の所信表明以来、視聴者から『初めてみた』『こんなに面白いものなのか』『休憩時間を教えて。その間に買い物に行くから』といった意見が988件に上った。極めて異例」という。役者がそろった国会劇場は、本来の政策論争に欠けるとの批判はあるが、まだヒートアップしそうだ。